

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街神田 1F		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	令和1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和1年12月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様一人一人の個性に合わせての支援を心がけています。自分の家ではないけれど、ほんとの家族ではないけれど、わがままを言い、怒ってもらえる、そんな、家にいるような気持ちになってもらえるような関係づくりを目標としています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この3年で管理者が3名交代、現管理者は昨年9月より着任しています。本部人事部に所属していたとあって、職員の気持ちを推し量り、派遣社員を上手にシフトに組込む力量があるとはいえ現場の采配は難儀で、併設事業所の介護支援専門員が管理者経験が長い人だったこともあり、助言を得つつ体制の立て直しに尽力しています。人材不足が影響を与えているのか、昨年まで開催され好評だった家族会や夏祭りが本年度は開かれておらず、地域密着型の事業所運営にとって核となる交流の機会がなくなり、「今後どのようによりよい関係構築を構築していくのか」、現在の管理者なら必ずと願い、打開策が今後の糧となることを期待します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『明るい挨拶・明るい対応』を理念とし、ご利用者が明るく元気に楽しく過ごして頂けるような対応ができるよう努力しています。職員も張り合いを持って仕事をしています。	この3年で3名の管理者交代があり、再生と地域の信頼回復に向け、まずは「出勤時には必ず挨拶をする」など、開設当初からの理念に立ち返った取組みが推進されています。毎月のミーティングで都度振り返り、利用者の表情も明るくなっている事から手ごたえを感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方達との交流は円滑に行えています。朝の出勤者は施設周りの見回り、掃除を行っています。近所の方が声をかけに来てくれ、一緒に手伝ってくれます。また、利用者様と施設周辺を散歩に出かけたときは、率先して挨拶・声掛けをしています。	これまで通り、地域行事への参加が継続されています。外に向けゴミや排泄物を投げ捨てる利用者の行為は地域からも指摘を受けるに至り、本年9月より朝、早番による清掃が徹底され、今では事業所の姿勢に手伝いに入ってもらえるようになり、好転に実っています。	食中毒の懸念等から、期待されていた夏祭りが中止となっていますが、関係性が途切れないよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長・民生委員との連携を通し、周知してもらっている。また、地区の行事等に参加し顔を覚えてもらい、周知してもらえるようにしている。地域包括主催の勉強会に参加して、認知症介護施設の説明・自施設の紹介をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議時に施設の現状報告をし、意見を求め助言をもらっている。毎回ではないが、施設の中を見学してもらい、気が付いたことを言ってもらい、改善している。	併設事業所との合同開催で隔月実施できており、メンバーの民生委員からは「災害時対策として近隣の福祉施設とつながりをもったらどうか」といった防災面から、「事業所周辺の草が伸びてきている」等の美観に関わることまで心配してもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、現状報告をし、意見・助言をもらっている。また、施設側からも介護保険に関しての不明点等質問し答えをもらっている。以外にも、教えてほしいことがあれば区役所に電話して教えてもらえる関係性は確立しています。	市役所には運営推進会議の案内を送り、議事録は窓口に届けていますが、出席は地域包括支援センターが担ってくださっています。集団指導、地域包括支援センター主宰の勉強会などにも積極的に出席し、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。	緊急やむを得ない場合の三要件の該当者はありません。指針、マニュアルを整備のうえ、運営推進会議開催時におこなうことで身体拘束廃止委員会を2ヶ月ごととし、地域からのメンバーにも身体拘束廃止の取組みにおける現状を周知しています。	指針やマニュアル、委員会議事録と職員への周知徹底、研修記録等、身体拘束廃止に係る一連の取組みがわかるよう、一冊のファイルに整理されるとなるとおよいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、職員全員に周知徹底している。日常での何気ない言動にも注意することも徹底している。1/月のミーティング時でも話し合いを持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修・地域包括主催の勉強会に代表者が参加し、現場職員に展開している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明し、疑問や不安が残らないようにしている。契約後であっても、どんなことでも気になったことは質問してもらえるよう話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも質問し、また苦情に関しても気軽に言ってもらえる関係づくりができるよう努力している。意見に対しては迅速にこたえ、改善するようにしている。契約時に、言いにくいことは本社窓口があり、連絡先も提示している。	毎月『神田だより』を発行、手書きで1ヶ月の様子に写真を添えて家族に送っており、「いつも楽しみにしている」という声も届いています。運営推進会議の出席者はなく、家族会もなくなった現在、家族が衣替えに訪れてくださる機会を逃さず、コミュニケーションに努めています。	8割以上の出席が叶っていた家族会の代替えとなる機会や仕組みが検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見提案は管理者が上長に提言し会社に伝えるシステムが成立している。	毎月のミーティングでは一人ひとりに投げかけ、発言を促しており、人事考課に絡んで半年毎に上長との面談もあります。また管理者は1階のシフトに入っていることから、職員の忌憚ない意見も聞けていて、普段の何気ない会話を大切に注視してます。	人員確保のため派遣社員に頼る現状から、安定した職員体制が整うよう、原因の洗い出しと対策の検討に力を入れていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリアパス制度も導入されている。また、新たに人事考課システムも導入され、給与水準向上に生かされている。事業所でも離職を減らすために働きやすくやりがいがあるような環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は月に1度行っており、参加している。また、外部研修に関しては、個々に希望があった場合でも会社で		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括等主催の研修に参加し、交流を持つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントしたことを職員間で話し合い、本人も家族も安心していただける環境を整備している。 また、マンツーマンで過ごせる時間を作り、本人の想いを押し量り、信頼関係の構築をする努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントしたことを職員間で話し合い、本人も家族も安心していただける環境を整備している。 施設入居に対しての家族の不安を払拭させ、何でも言ってもらえる関係構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や意見に対し、希望を受け入れる努力をしている。金銭面の事も考量し他のサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族が気軽に来訪できる環境を作り、共に考えていける関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に来訪できる環境を作り、共に考えていける関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に、来訪しやすい、敷居の低い施設と思ってもらえる環境を作っている。 来訪してくれた方達とのんびり過ごせるよう配慮している。	友人や職場の同僚の訪問もあり、「居室でゆっくりされますか？」と声をかけ、お茶をだしてゆったり過ごせるよう配慮しています。また、会社経営者していた人には『監査』と称して、本人用にあつらえた書類チェックをお願いすることで、平穏な日常を保っているという例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築もあるが、それ以外の方達との交流してもらうために職員が間に入り、全体としての関係づくりもしている。 相手を思いやり、心配してくれる人たちがいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が他の方のサービス利用の相談をしてくれる。利用していた母親がなくなり、今度は父親を、と利用につながった例もある。サービス利用ではない相談もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症がの症状で自分の真の想いが伝えられない方もいるが、マンツーマンの時間をできるだけ作り、傾聴する努力をしている。家族からの聞き取りを元に本人の想い優先を実施している。	アセスメントを重視し、家族との面談から生活歴を把握しています。本人からの直接聴取は難しいので、テレビを見ながら発した言葉や、普段の動きの連想などから、「京都に行ったことがある」「神主をやっていた」など新しい発見に結ばれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からのアセスメントと情報提供を元に把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族からのアセスメントと情報提供を元に把握するよう努力している。 日常生活の中から見つけ出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人が現状把握に努め支援内容についてカンファレンスを実施し、家族・医療と話し合いを持ち本人にとって最善の計画書を作れるよう努めている。	カンファレンスはミーティングで実施するとともに、機会ある毎にその日の勤務職員でプチカンファレンスがおこなわれ、現状把握と改善点の抽出を確かなものに行っています。また本人らしさが香る言葉で綴った希望、家族エピソードがよく伝わる第1表、第2表を確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録・申し送りを反映できるようにしている。微細な事でも情報共有し支援内容の変更に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態把握を徹底し、日々変化するニーズにも柔軟に対応できるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問診療は行っているが、医師からの助言・家族の希望を含め適切に対応している。	協力医に全員が変更、月に2回訪問診療があり、勤務の看護師が必ず立ち合っており、家族には薬が変わった時に電話連絡しています。専門医の報告は受診支援の家族から口頭で受けており、診療結果は個人の経過記録に残しています。また精神科には職員も同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を元に気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。 看護師の指示の下適切な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりは円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント・契約時に終末期に関しての家族の意向を聴取している。その時が近づいたとき、頻回に家族との話し合いを持ち、変化する思いにも十分な対応ができるようにしている。	契約時には重度化に係る指針について説明し、同意を得ています。家族の意向があれば看取りに取組む姿勢ではいるも、実際は救急搬送となり、開設以来看取りの実績はありません。協力医は24時間夜間でも駆けつけてくれるため、その点においては安心です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練等実施している。 法人でも対策本部が置かれ、いつでも援助してもらえる。地域の方達にも協力をお願いしている。	毎月1日には避難経路の確認などミニ訓練をおこなっていますが、年2回の法定訓練は今年度未実施で、急ぎ取組むこととしています。浸水の危険がある地域であり、10月の大雨のときは、近隣住民に事業所駐車場(周辺より高くなっている)を貸し、浸水避難に貢献しています。	避難勧告があると地域の人からも心配の電話が入るほど、事業所を気にかけてもらっていますが、今後は地域の訓練への参加があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬う気持ちを大切にしている。こもりきりにならないよう配慮はするが、一人の時間も大切にしてもらえるようにしている。	「恥ずかしい」という声もあり、同性の職員が応じることができるように配しています。「トイレのドアを閉める」「居室に入る時は必ずノックすること」をルールとし、清掃で入る時にも必ず「今から入らせていただく」ということを本人に伝えていきます。プライバシーに係る研修も継続しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、配食サービスとなっているが、味付けし直したり、彩りを工夫したりしている。調味料も、身体に影響を及ぼさないようには考慮しているが、できるだけ、本人が美味しく食べてもらえるよう使ってもらっている。	業者から配達されたパックを湯煎、盛り付けを利用者と一緒にこなっています。検食簿には味付け・固さ・異物混入等の有無はありますが、コメントの記入はありません。おにぎりやワンプレートにして食べやすさに気遣い、器と惣菜の色合いを考慮するなどの個別対応も見られます。	検食簿にコメントを入れ、機能させることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄をできる限り実施している。ただ、本人の身体に無理がかかる支援は行わないようにしている。一人での介助が困難な方は、二人体制で行っている。	パッドは尿量、交換頻度により5種類の中から選んでおり、夜間おむつで安眠という人もいて、事業所の方針を押し付けることなく本人本位としています。中には、排便周期をつかむなど清潔保持できる排泄支援の方策を職員総意で検討中の利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調・思いを優先している。入浴のタイミングがなかなか難しい方は足浴・清拭での対応も行っている。	可動式の手すりが設置されていますが、骨折等で浴槽を跨げない人はシャワー浴となっています(現在2名)。週2回を清潔の目安とし、浴剤は2種類用意しています。湯の張り替えをしているので「浴剤は入れないでほしい」という人が2番湯になっても対応が叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全に安心した環境を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師主体で管理している。介護職員も把握できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の笑顔を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への散歩は常時している。買い物・ドライブ等本人の希望があったときにはできる限り応えられるよう努力している。	午後、2~3名の小グループで事業所周辺を気分転換に散歩しています。個別の買い物も時にあり、花を愛でたり草取りをしたり、中庭での外気浴も盛んです。毎年開催される法人運動会への参加でエコパまで出かけていますが、年間行事としての外出の位置づけはありません。	現状の職員体制では外出に限界があるかも知れませんが、年に一度でも個別外出支援ができれば良いと思います。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの下実行できる時はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心がけている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。	フロアにあるボードにはレクリエーションや脳トレの活動が示され、メリハリある生活があることが視えます。またアルカリ水でフロアモップ掛けをおこない、コンタクトポイントは朝早番が次亜塩素酸の薬剤を吹きかけ清潔に努め、酸性水噴霧も加え、昨年度感染症の流行はありません。	物置となっている和室スペースの見直しを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が望むもの、本人が大切にしていたものを持ち込んでもらい、清潔で過ごしやすい空間づくりを心がけている。	ベッド、クローゼット、エアコン、カーテンが予め備わっています。夫婦の写真が飾ってあったり、昔懐かしい和ダンス、テレビ台が持ち込まれ、昭和の家庭のような居室を視認しました。一方で転倒リスク回避のため、移動の妨げとなるものを除去して動線確保している居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街神田 2F		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	令和1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和1年12月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様一人一人の個性に合わせての支援を心がけています。自分の家ではないけれど、ほんとの家ではないけれど、わがままを言い、怒ってもらえる、そんな、家にいるような気持ちになってもらえるような関係づくりを目標としています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この3年で管理者が3名交代、現管理者は昨年9月より着任しています。本部人事部に所属していたとあって、職員の気持ちを推し量り、派遣社員を上手にシフトに組込む力量があるとはいえ現場の采配は難儀で、併設事業所の介護支援専門員が管理者経験が長い人だったこともあり、助言を得つつ体制の立て直しに尽力しています。人材不足が影響を与えているのか、昨年まで開催され好評だった家族会や夏祭りが本年度は開かれておらず、地域密着型の事業所運営にとって核となる交流の機会がなくなり、「今後どのようによりよい関係構築を構築していくのか」、現在の管理者なら必ずと願い、打開策が今後の糧となることを期待します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『明るい挨拶・明るい対応』を理念とし、ご利用様が明るく元気に楽しく過ごして頂けるような対応ができるよう努力しています。職員も張り合いを持って仕事をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方達との交流は円滑に行えています。朝の出勤者は施設周りの見回り、掃除を行っています。近所の方が声をかけに来てくれ、一緒に手伝ってくれます。また、利用者様と施設周辺を散歩に出かけたときは、率先して挨拶・声掛けをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長・民生委員との連携を通し、周知してもらっている。また、地区の行事等に参加し顔を覚えてもらい、周知してもらえるようにしている。地域包括主催の勉強会に参加して、認知症介護施設の説明・自施設の紹介をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議時に施設の現状報告をし、意見を求め助言をもらっている。毎回ではないが、施設の中を見学してもらい、気が付いたことを言ってもらい、改善している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、現状報告をし、意見・助言をもらっている。また、施設側からも介護保険に関する不明点等質問し答えをもらっている。以外にも、教えてほしいことがあれば区役所に電話して教えてもらえる関係性は確立しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、職員全員に周知徹底している。日常での何気ない言動にも注意することも徹底している。1/月のミーティング時でも話し合いを持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修・地域包括主催の勉強会に代表者が参加し、現場職員に展開している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明し、疑問や不安が残らないようにしている。契約後であっても、どんなことでも気になったことは質問してもらえるよう話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも質問し、また苦情に関しても気軽に言ってもらえる関係づくりができるよう努力している。意見に対しては迅速にこたえ、改善するようにしている。契約時に、言いにくいことは本社窓口があり、連絡先も提示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見提案は管理者が上長に提言し会社に伝えるシステムが成立している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリアパス制度も導入されている。また、新たに人事考課システムも導入され、給与水準向上に生かされている。事業所でも離職を減らすために働きやすくなりやすい環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は月に1度行っており、参加している。また、外部研修に関しては、個々に希望があった場合でも会社で		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括等主催の研修に参加し、交流を持つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントしたことを職員間で話し合い、本人も家族も安心していただける環境を整備している。 また、マンツーマンで過ごせる時間を作り、本人の想いを押し量り、信頼関係の構築をする努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントしたことを職員間で話し合い、本人も家族も安心していただける環境を整備している。 施設入居に対しての家族の不安を払拭させ、何でも言ってもらえる関係構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や意見に対し、希望を受け入れる努力をしている。金銭面の事も考量し他のサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族が気軽に来訪できる環境を作り、共に考えていける関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に来訪できる環境を作り、共に考えていける関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に、来訪しやすい、敷居の低い施設と思ってもらえる環境を作っている。 来訪してくれた方達とのんびり過ごせるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築もあるが、それ以外の方達との交流もしてもらうために職員が間に入り、全体としての関係づくりもしている。 相手を思いやり、心配してくれる人たちがいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が他の方のサービス利用の相談をしてくれる。利用していた母親がなくなり、今度は父親を、と利用につながった例もある。サービス利用ではない相談もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症がの症状で自分の真の想いが伝えられない方もいるが、マンツーマンの時間をできるだけ作り、傾聴する努力をしている。家族からの聞き取りを元に本人の想い優先を実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からのアセスメントと情報提供を元に把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族からのアセスメントと情報提供を元に把握するよう努力している。 日常生活の中から見つけ出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人が現状把握に努め支援内容についてカンファレンスを実施し、家族・医療と話し合いを持ち本人にとって最善の計画書を作れるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録・申し送りを反映できるようにしている。微細な事でも情報共有し支援内容の変更に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態把握を徹底し、日々変化するニーズにも柔軟に対応できるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問診療は行っているが、医師からの助言・家族の希望を含め適切に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を元に気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。 看護師の指示の下適切な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりは円滑に行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント・契約時に終末期に関しての家族の意向を聴取している。その時が近づいたとき、頻回に家族との話し合いを持ち、変化する思いにも十分な対応ができるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練等実施している。 法人でも対策本部が置かれ、いつでも援助してもらえる。地域の方達にも協力をお願いしてある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬う気持ちを大切にしている。こもりきりにならないよう配慮はするが、一人の時間も大切にしてもらえるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、配食サービスとなっているが、味付けし直したり、彩りを工夫したりしている。調味料も、身体に影響を及ぼさないようには考慮しているが、できるだけ、本人が美味しく食べてもらえるよう使ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄をできる限り実施している。ただ、本人の身体に無理がかかる支援は行わないようにしている。一人での介助が困難な方は、二人体制で行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調・思いを優先している。入浴のタイミングがなかなか難しい方は足浴・清拭での対応も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全に安心した環境を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師主体で管理している。介護職員も把握できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の笑顔を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は常時している。買い物・ドライブ等本人の希望があったときにはできる限り応えられるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの下実行できる時はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心がけている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が望むもの、本人が大切にしていたものを持ち込んでもらい、清潔で過ごしやすい空間づくりを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		